

平成29年10月2日

旧陸軍隈庄飛行場「油倉庫」解体について

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

1 保存活動の経緯

- (1) 平成28年9月27日くま戦跡ネット第9-1号
「陸軍隈庄飛行場油倉庫・弾薬庫」の近現代遺跡・震災遺産としての保存」要望文
○戦争の記憶を伝える近現代文化財として、また地震の教訓を伝える震災遺産文化財として指定し保存
○8月「第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム長野県松代大会決議文」を添えて
- (2) 平成29年3月20日くま戦跡ネット第18号
「陸軍隈庄飛行場油倉庫・弾薬庫」の震災遺産としての部分保存及び指定等」要望文
○保存の前提となる現所有者の財政的負担が困難であり、公費解体も6月に迫り、現有建物破損状況が著しく安全面での担保も難しいことから、主要部材を移設して「部分保存」
- (3) 平成29年8月7日くま戦跡ネット第23号
「陸軍隈庄飛行場油倉庫」の震災遺産としての部分保存」要望文
- | | |
|--------------------------------|---|
| 9月 熊本市へ要望書 | 1月 現地に説明看板設置 |
| 10月 熊本県へ要望書 | 2月 地元への啓発として「三船敏郎、隈庄飛行場の軌跡Ⅱ」展の開催 |
| 11月 熊本市への文書提出と面談 | 3月 被災リーフレット「平成28年熊本地震による陸軍隈庄飛行場油倉庫・弾薬庫の被災状況」刊行・配布 |
| | 4月 「くまもと戦跡ネットHP」を立ち上げ「平成28年熊本地震での復旧・復興活動：被災状況報告・PDF」で報告 |
| 平成29年 | 5月 啓発リーフレット「碧空に祈る 隈庄飛行場」発刊・配布 |
| 3月 熊本市へ要望書提出、文化振興課との意見交換 | 7月 署名活動開始 |
| 8月 熊本市へ油倉庫部材の部分保存の再度要望 | 8月 地元啓発「絵本・玩具から見た戦争」展の開催 |
| 9/27 熊本市文化振興課による小型部材の保護（扉・窓枠等） | |
| 10/2 公費解体 | |

2 課題

- ①未指定文化財の修復・保存での所有者負担の壁
- ②平成28年10月立案『熊本市復興計画』にある「震災の記憶を次世代につなぐプロジェクト」の拠点整備も見えず、関わりがとれなかった。
- ③熊本県「震災ミュージアム」構想でも、広義「震災遺構（建物を含む）」が具体化できなかった。
- ④宮城県「3.11震災伝承研究会」の様に、幅広く、この問題での県民意見の集約や協議ができなかった。文化財に関する「中間支援組織」の様なもの、熊本ではなかった

3 今後に向けて

- ①部分保存した「油倉庫部材」の移設先、有効活用等の市文化振興課との協議
本会では、次年度開催予定の展示会「絵本・玩具から見た戦争展Ⅱ（仮）」での紹介
- ②残された「弾薬庫」の市指定に向け、署名活動等の推進、12月市長への提出
- ③城南町有志の方々との連携で、将来的には地域市民グループの創設
「戦争の記憶、震災の体験、復興の姿」を、後世に語り継ぐ活動に向けて



問い合わせ先・連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生
自宅 / 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
TEL & FAX 0968 74-5030
個人携帯 090-1513-5528
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP <http://www.kumamoto-senseki.net/>